

2011年12月 有償バージョンアップ情報

■施工図システム

1. 本柱、途中階入力システムを開発
2. ガセット方杖入力を開発
3. 庇の吊材システムを開発 （ [軸プレス] - [配置] - [吊材] ）
4. 平面プレス プレスシート合番を画面表示する設定を設ける
5. // 小梁ガセットの裏リブ表示を設ける
6. // 「梁修正」のガイド図を修正
取付高さ・ポイントからのニゲ寸法を表示するように表記
7. 軸プレス プレスシート合番を画面に表示する設定を設ける
8. // 軸プレスの1体型対応
9. // 小梁ガセットのCTに対応
10. 大型物件時の対応
梁、間柱の表示速度を高速化に対応
11. 間柱の梁ベース 補強リブ厚を0で入力すれば、リブを入れないよう修正
12. 梁単品の間柱ベース寸法表記を一部修正、削除
13. 柱、梁、仕口加工票作成時のCSV出力を開発
14. ジョイント、[梁継手設定]の剛接ボルト表示設定 今まではボルトだけだったのを、板枚数にも対応

■胴縁システム

1. 「データ保存」「データ復帰」 Windowsのバージョンのチェックを追加
2. 「集計表」 ピース・ボルトの工区毎の小計を表示するよう修正
3. 「データ変換」 図面(DXF)の胴縁、直線読み込みの誤差の設定を追加
4. 元図の読込・画面表示の高速化の設定を追加
※「データ変換に使用した直線を画面に表示しない」を停止することで高速化

<施工図システム>

1. 途中階システム

ペントハウス柱だけでなく、本柱でも下階の梁にベースで載せる事が可能になりました

入力方法

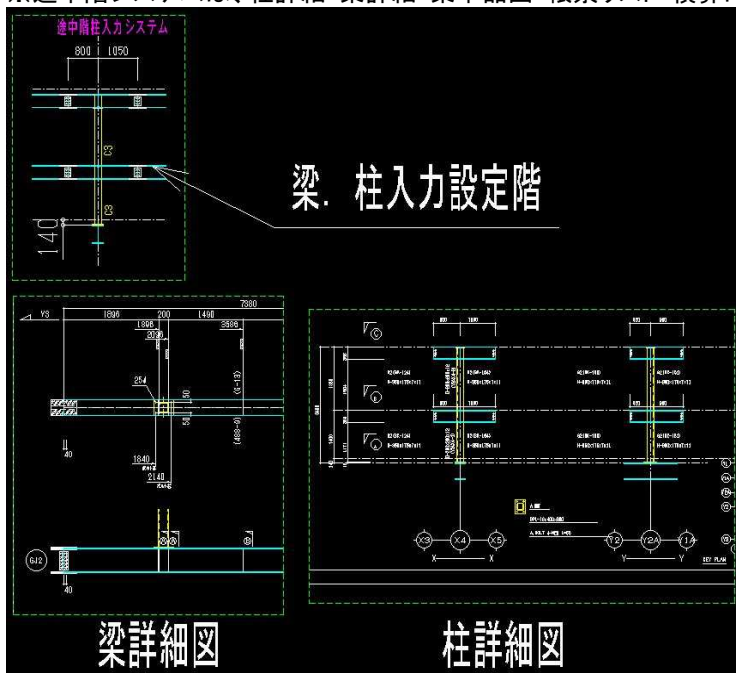
- ① [本柱配置]の[途中階ベース作成]でベースを入力して下さい（ペントハウス柱で使用するのと同じベースデータです）
- ② [本柱配置]で、柱を上階に配置して下さい
（柱の下階に梁があると、その柱を[途中階柱]と認識します）
- ③ [本柱配置]の[修正]で、ベース合番、リブ板厚を設定して下さい

①このボタンで途中階ベース作成

③(途中階柱)になっていると、[ずれ↑]入力後に[ベース合番]の入力画面になります

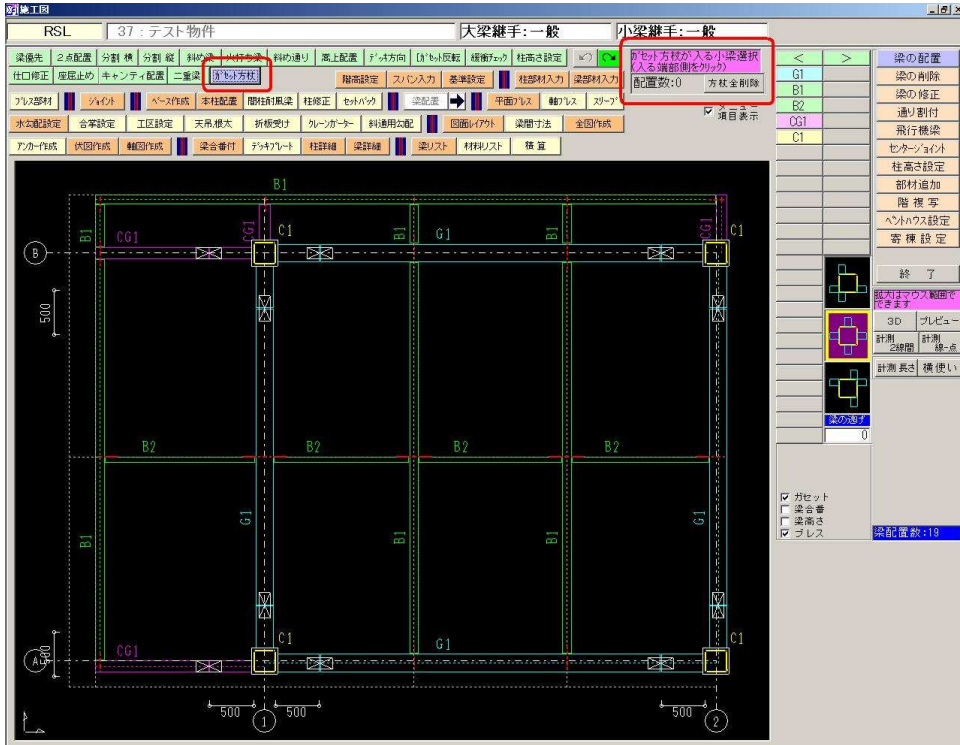


※途中階システムは、柱詳細・梁詳細・梁単品図・帳票リスト・積算に連動します



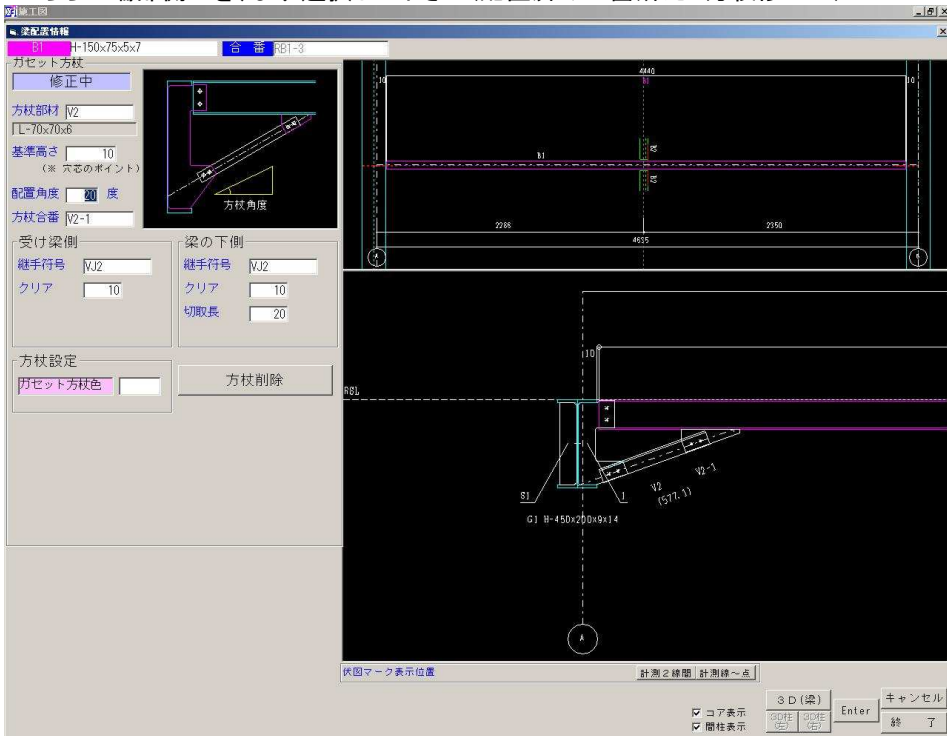
2. ガセット方杖

梁配置に[ガセット方杖]ボタンが追加されています



梁をマウスクリックすると、ガセット方杖入力になります

どちらの端部側かを、まず選択して下さい(配置済みの箇所だと方杖修正に)

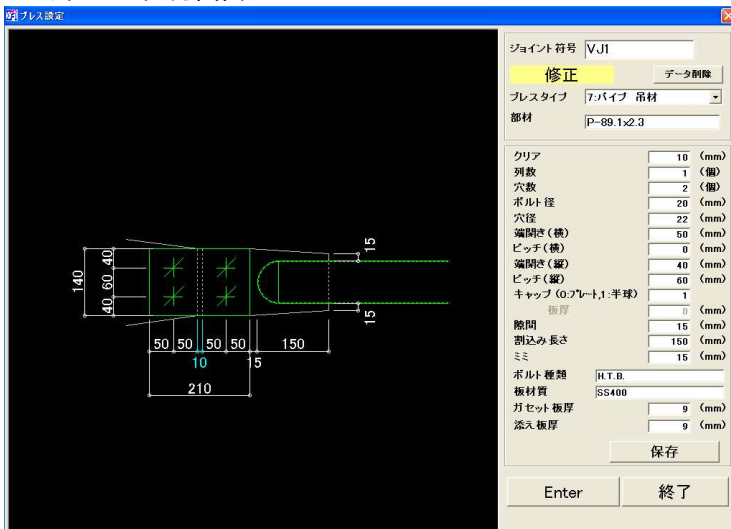


案内に従い項目を全て入力し、左下の[終了]ボタンを押すとガセット方杖が保存されます

- ※ ブレスで入力した部材が使用できます(現状、パイプ、FB、アングル縦(DL)には対応していません)
- ※ 受け側の大梁が転んでいる、または勾配が付いている場合は、現状対応していません
- ※ 現バージョンでは、(受け梁 — 小梁の下側)取り合いのみ対応しています
(右受け梁 — 左受け梁 は未対応)
- ※ ガセット、軸図、梁詳細、リスト、積算に対応しています(アングル部材は、山型加工リストに追加)
- ※ ガセット方杖の納め方向は、選んだ小梁と同じ向きに入ります

2. 吊材入力追加

プレスのジョイント、パイプの2面せん断に対応しました
 <ジョイントの入力画面>



<吊材の新規配置画面>

軸プレスの[配置]で入力します。(画面上部右の[吊材]のタブを選択)



入力方法

- ① 始点(梁側)の通り交点ポイントをクリックします(線が赤くなっている交点)
 通り(割付線)からの寸法を入力します。
 ポイントの基準を選択します。「梁芯」・「梁面」
- ② 終点(柱側)の通り交点ポイントをクリックします(線が赤くなっている交点)
 階基準線(割付線)からの寸法を入力します。
 ポイントの基準を選択します。「柱芯」・「柱面」・「通り芯」
- ③ 水切りプレートの有無を選択します。
 「有」の場合は取付位置と板厚を入力します。
- ④ クリアを入力します。
 水切りプレート有り・・・水切りプレート上面からのクリアです。
 水切りプレート無し・・・溶接する梁の上面からのクリアです。
- ⑤ 以降の入力は軸プレスと同様に行ないます。
 梁側のリブプレートは「押さえリブ」で設定を変更します。

<吊材のデータ入力画面>

吊材施工図

2FL 6:新築工事 大梁継手:一般 小梁継手:一般

軸 プレス V11.12.02

配置: 1

配置数: 1

配置完了

部材: V3 P-89.1x2.3

継手符号: 始点 V.J3 終点 V.J3

プレスシート: 原寸型 1 体型 原寸型 1 体型

既製品 既製品

シート位置: 0 0

溶接面: 0 0

ポイント: 柱芯 梁芯

ニゲ寸法: 0 0

第1孔のニゲ: 240 264

クリアランス: 30 30

切取長: 30 40

フレートクリア: 0 0

溶接幅: 30 30

取付スレ: 0 0

取付マーク: 無 無

位置: 0 0

押さえリブ: 無 片面 両面 無 片面 両面

右 左 左右 上 下 上下

板厚: 6 6

水切フレート: 無 有 6 無 有 6

取付位置: 0 0

ターンバックル: 左 右 無 納め方向

刃の向き: 背が上 背が下 ↓ ↑

決定<Enter> 中止<ESC>

決定<マウス左ボタン>、中止<マウス右ボタン>

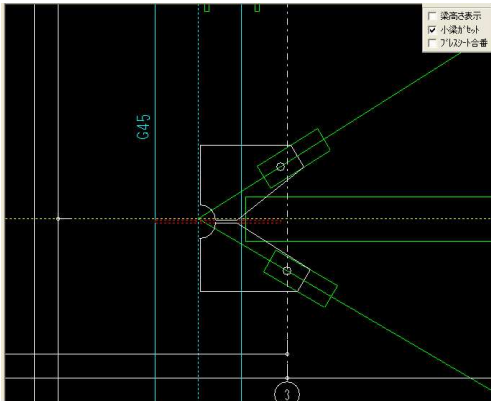
4. 平面プレスの編集画面にプレスシートの合番を表示するようにしました。

設定方法 編集画面右上の「プレスシート合番」にチェックします。



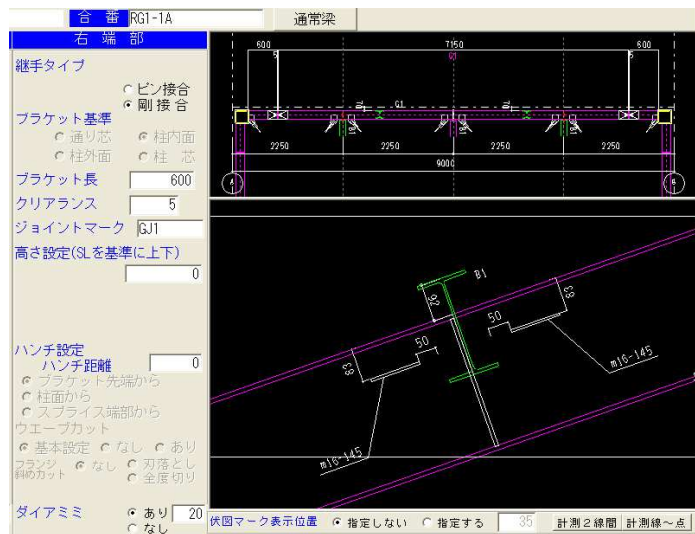
5. 平面プレスの編集画面に小梁ガセットの裏リブを表示するようにしました。

設定方法 編集画面右上の「小梁ガセット」にチェックします。



6. 「梁修正」のガイド図

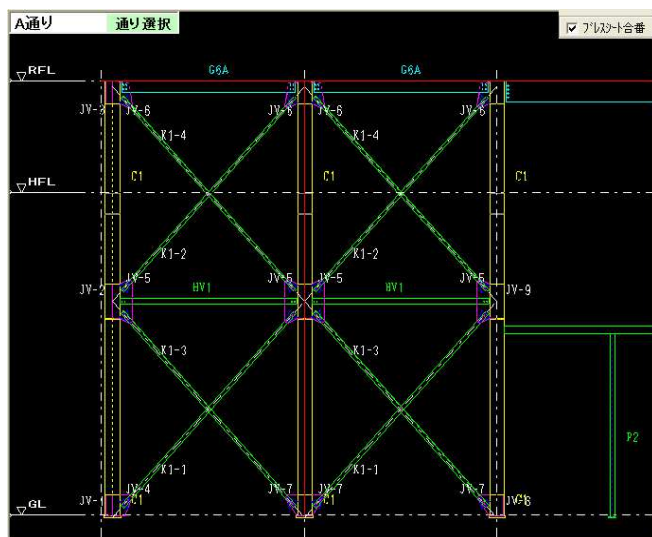
平面ブレスの取付高さ・ポイントからのニゲ寸法を表示するようにしました(軸面)



7. 軸ブレスの編集画面にブレスシートの合番を表示するようにしました

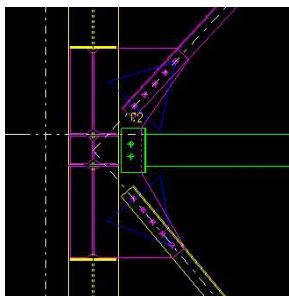
設定方法

- ① 編集画面右上の「ブレスシート合番」にチェックします



8. 軸ブレスの1体型

小梁ガセットのジョイントの「CT使用」に対応しました。



11. 間柱 梁ベースの修正

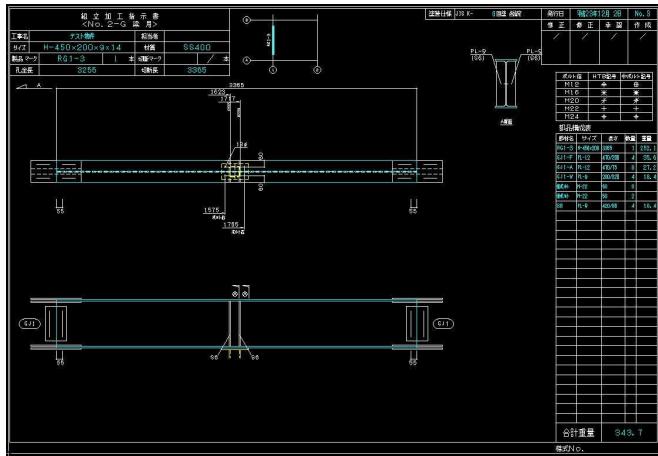
・間柱入力で梁ベースにした場合

[梁リブ厚み]を0にすると、その箇所には補強リブを入ないように修正しました

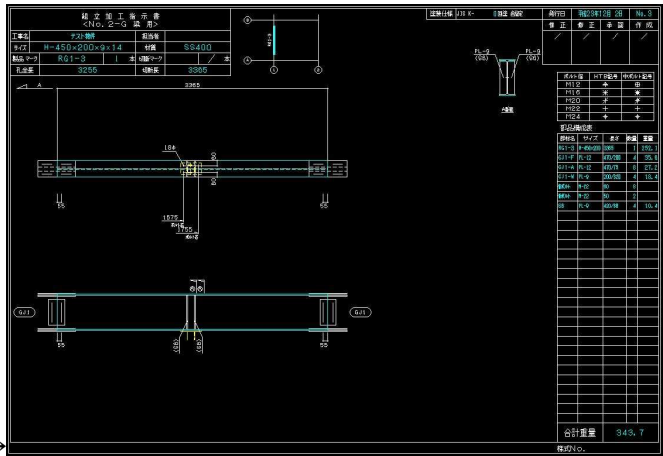


12. 梁単品図の間柱ベース修正 重ならないように、寸法と合番表記を一部修正、削除しました

修正前

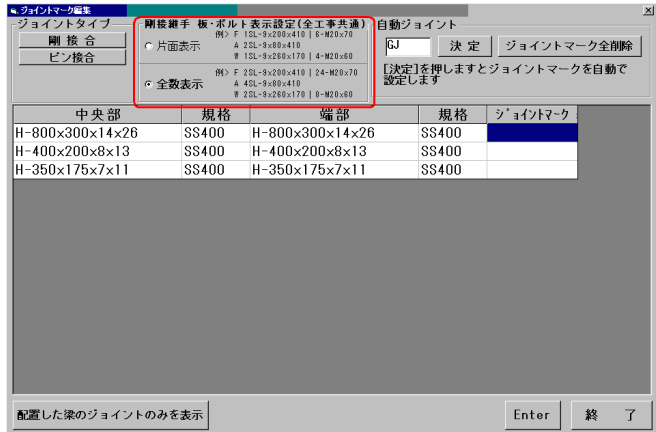


修正後



14. ジョイント 梁継手設定の変更

今まではボルトだけでしたが、板の枚数にも影響させるように変更



< 胴縁システム >

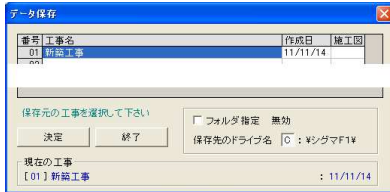
1. 「データ保存」「データ復帰」

Windowsのバージョンのチェックを追加しました

* Vista以降のOSでは、フォルダ指定をしない場合のバックアップ保存フォルダを変更します

XP以前 [ドライブ名]: ¥

Vista以降 [ドライブ名]: ¥シグマF1¥



* 任意のフォルダにバックアップを保存する場合は「フォルダ指定」を有効にしてください

2. 「集計表」

ピース・ボルトの工区毎の小計を表示するようにしました

工区	ピース	数量	ボルト
1	P90	8	8
	n30	36	36
	F15	52	52
計		96	96
2	P90	8	8
	n30	28	28
	F15	56	56
計		92	92
全工区	P90	16	16
	n30	64	64
	F15	108	108
合計		188	188

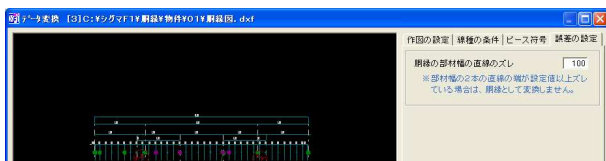
3. 「データ変換」

図面 (DXF) の胴縁 直線読み込み誤差の設定を追加しました

胴縁として作図した部材幅の2本の直線の端がズれている場合の設定です
ズレが設定値より大きい場合は胴縁として変換しません

設定方法

「データ変換」-「誤差の設定」で設定を変更します



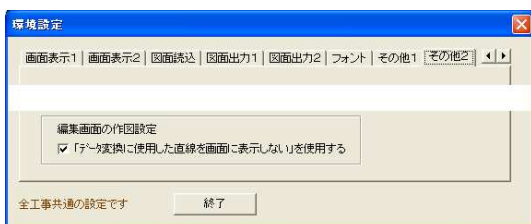
4. 処理の高速化

元図の読込・画面表示の高速化の設定を追加しました。

* 「データ変換に使用した直線を画面に表示しない」の機能を停止することで処理が速くなります

設定方法

「初期設定」-「環境設定」-「その他2」で設定を変更します



以上